

## 第 14 回遠州広域行政推進会議 議事録

- 1 日 時 平成 30 年 1 月 31 日(水) 15:00~17:15
- 2 場 所 御前崎市消防本部 2 階 会議室
- 3 出席者 浜松市長(座長)、磐田市副市長、掛川市長、袋井市長、湖西市長、御前崎市長、菊川市長、牧之原市長、森町長
- 4 概 要 以下のとおり。

### 議 題

#### (1) インバウンドを見据えた広域連携のあり方について

資料 1 に基づき、事務局(浜松市企画課)から状況報告。

資料 2 に基づき、総務省総合通信基盤局 データ通信課 内藤様からご講演。

資料 3 に基づき、ソフトバンク株式会社 井上様、株式会社 Liquid 林様による勉強会を開催。その後、意見交換を実施。

- [掛川市長] 掛川市でも官民連携で Wi-Fi の整備を行っている。2019 年ラグビー WC では多くの外国人旅行客が来ると想定されるが、掛川市の歴史資産について外国の方が調べると同時に、自ら周遊するための手段として Wi-Fi の整備を進めたいと考えている。今、掛川市では約 80 か所のアクセスポイントが整備されているが、ひとつのアクセスポイントで利用可能な範囲は 50m 程度であり、そこから外れると機能しなくなってしまふ。私としては、外国人に街中を回ってほしいと考えているが、どのような対策を講じるべきだろうか。
- [内藤様] アクセスポイントでは機器にもよるが数十 m 程度の範囲でしか使えない。見通しがいい場所ではもう少し届くが、限界がある。これは親機の電力に起因する制限である。他自治体では、各 Wi-Fi スポットから例えば半径 50m ほどの同心円を落とし込んだ地図を作成し、駅周辺の観光案内所で配布する取り組みを行っている。その他、観光スポットを何か所か回るとクーポンが貰えて、それを見せると割引になるサービスを導入している自治体もある。しかし、そこまでやると高度なシステムの導入が必要になるため、コストパフォーマンスの問題が出てくる。
- [浜松市長] 例えばグーグルマップを使って Wi-Fi スポットを表示し、移動先で使用可能なスポットが分かるようにできないか。そのような取り組みはあるか。
- [内藤様] 行政の取り組みに限らず、地図上にフリースポットを示すサイトやアプリは存在するが、外国人旅行者の中には、旅行先では携帯電話でのインターネット通信機能をオフにしてしまう方が多く、その方々はそもそもサイトを見ることができないため、地図の配付で対応しているようだ。
- [掛川市長] 例えば、仮に中国で導入されているようなキャッシュレス決済を飲食店で導入する場合、各店舗と行政はそれぞれ具体的に何をすれば導入できるのか。
- [井上様] キャッシュレス決済は世界的に普及しつつあり、日本も数年内にはそういう時代に突入するだろう。日本も下地はあるため、後は起爆剤となるような政策が必要である。飲食店に対する端末導入支援や、それによって上がった売り上げについてもデータで示していくことが重要だ。自治体の事例として、高山市では飛騨信用金庫と連携して「さるぼぼコイン」という仮想通貨を導入し、各店舗でもそれに対応するサービスが増えてきているのが最近話題の取り組みである。ふるさと納税もそういったコインに替えて、高山に来て貰い、現地の商店街などで使ってもらうなど発展の可能性があると考えている。
- [掛川市長] 端末の導入には多額の費用がかかるのか。
- [林様] Liquid 社では、マルチ決済可能なポスレジを各店舗に導入している。こちらは普通に買えば約 50 万円と高額だが、中小企業庁の軽減税率対策補助金で

購入費用の三分の二を国が補助し、残りの三分の一を店舗で負担するようになっていいる。Liquid 社では、このレジを広める手段の一つとして、本来店舗が負担するはずの三分の一を代わりに負担することで、実質 0 円でマルチ決済可能なレジを導入できるようにしている。

- [浜松市長] 静脈認証ではなく指紋認証なのか。
- [林様] Liquid 社はベースが指紋認証の会社のため、指紋認証を使用している。少し怖い話になるが、指紋認証の場合、切ってきた指やシリコンで型取りした指、握手した時に採取した指紋が使われてしまうのではないかと懸念がある。そのため、我々は生体検知と言って、指紋認証を行う前に、静脈の位置や静脈がアクティブであるかを確認しており、より高い精度でサービスを提供できる。
- [浜松市長] 指紋と静脈で認証を行う他社と同じ仕組みか。
- [林様] 指紋認証を行っている会社はいろいろあるが、Liquid 社では他社と少し違う仕組みを用いている。例えば、指紋認証を行う ATM の場合、指紋情報がカードの IC チップの中に入っていて、その情報と認証機器に置かれた指の指紋が一致するかを見ているだけである。しかし、我々はカードを一切使わず、今置かれた指が登録者本人の指であることをクラウド上の情報と照合して確認している。そのため、サービス利用者が仮に 100 万人いた場合、100 万回の照合をしないと認証ができないが、独自の技術を持っているため、通常は 1 分、100 秒と係るはずの認証を 5 秒、3 秒で高速認証を行うことに成功している。この技を使って、現在、銀行でバンクカードも暗証番号も使わないサービスを提供している。
- [浜松市長] ファイド(Fast Identity Online<sup>(\*)</sup>)の仕組みを用いているのか。
- [林様] 実はファイドとは全く逆の仕組みになる。アップルやギャラクシー等の指紋認証はファイドの仕組みを使っているが、これには一つ弱点がある。ファイドの場合、端末に指紋情報が入っているため、その端末を落とした場合、取ろうと思えば持ち主の指紋情報が取れてしまう。Liquid 社では、そこをリスクと考えて、指紋情報を全てクラウド上に保管している。クラウドに保管される指紋情報は通常の画像のままではなく、一度全く違う情報に置き換えて保管している。仮にハッカーなどにその情報を盗まれてしまっても、不可逆的な形で保存しているため、そこから指紋を復元することはまずできない。それをセキュリティの一環として実施している。
- [袋井市長] 指紋認証の話から外れるが、例えば、オーストラリアの観光客が愛野の駅で JR を降りてエコパスタジアムに向かう途中の屋台で買い物をする場合、一番需要の高いキャッシュレス決済手段はクレジットカードか。
- [林様] オーストラリアの場合は基本的にクレジットカードである。
- [袋井市長] そうすると、店側にカードリーダーが必要になる。商工会の方々がカードリーダーの普及に向けて働きかけており、カードリーダーを購入すればラグビーWC が終わった後でもそれを使うことができるが、クレジットの決済期間が長いため、店舗側が嫌がり普及が進まない。行政としてできることは、端末導入に対する補助と路上でリーダーが使えるように Wi-Fi 環境を整備することだと思うが、そのような取り組みに対する補助制度はあるか。

\*1：生体認証などによるパスワードレス認証手法。生体情報はクライアント側の装置内に保存し、サーバー上では鍵認証のみを行う特徴がある。

- [林様] 今の話にはいくつか論点がある。まず、端末については、先ほどポストレジを例に出したが、イベントなどでもっとライトに使用したいという顧客向けの仕組みも提供している。クレジットカードについても、指紋と連携するサービスを提供しており、指紋認証を行うことでクレジットカードを持って来なくても決済ができ、後日クレジットカードの請求が来る、世界で初めてのサービスを提供している。
- [浜松市長] それについて質問したい。例えば、私は今クレジットカードを 5 枚持っているが、支払いの時に VISA や Master などのカードを選んで指紋認証を行えば、それで全て済んでしまうということだろうか。
- [林様] そうだ。
- [浜松市長] それが可能になればとても画期的なことだ。
- [袋井市長] 今の説明が少し分からない。VISA と Master の両方を持っていて、指紋で認証をしたとして、それが何故 VISA か Master を使うか峻別できるのか。
- [浜松市長] カードを選べばいい。
- [林様] その通り。支払いの時に、どれで支払うかを選べるようになっている。
- [袋井市長] 指紋で認証した上で、どれで払うか選ぶ必要があるのか。
- [林様] そうだ。それが VISA なのか Master なのか、それとも地域通貨なのかは導入する店舗ごとに異なる。
- [袋井市長] その選択は、言葉を話せなくても画面上の操作で可能になっているのか。
- [林様] そうだ。
- [浜松市長] だからそれができれば画期的なこと。クレジットカードには、マイレージなど違う機能もついている。だから、ALIPAY などもいいが、どうしてもクレジットを使いたいという人もいる。しかし、クレジットはいちいち認証をしないといけないため、決済が面倒である。Liquid 社のサービスの場合は、それが指紋でパッと支払いできてしまうため、画期的な仕組みだ。
- [林様] 何かのデバイスにまとめようとする結構大変な作業になるが、人間は生体を一つの ID として利用することができる。そこに情報を集約することができる技術を我々は有している。
- [浜松市長] セキュリティも完璧でいい。
- [袋井市長] それは導入にどれくらい期間がかかるのか。
- [林様] 端末を導入いただければ、すぐにご利用いただける。インターネット回線や使用場所は必要になるが、それが担保できれば、明日にでも利用が開始できる。
- [袋井市長] インターネット回線を道路に引かないと使えないか。
- [林様] 我々が現在提供しているサービスでは、端末と Wi-Fi とセットで店舗に導入している。データ通信容量が多いサービスではないため、月千円程度で各店舗が Wi-Fi の契約をして、利用していただいていることが多い。
- [浜松市長] 手数料についても、どのくらいか伺いたい。
- [林様] カード決済手数料は店舗や業種によってかなり異なるため、一概には言えないが、1 決済あたりの決済料率は大体 3% から 4% である。そこに、指紋決済の手数料を 0.2 から 0.3 上乗せしているが、既存のカード決済手数料とほぼ変わらない形でご利用いただける。
- [袋井市長] それが心配なのだが、カードの場合は決済手数料がかかることを嫌がる人がいる。仮に指紋認証を導入する場合、いくら少なくとも、指紋認証分の手数料が上乗せされるのは事実である。指紋認証により、マルチ的な要素が

増えることは分かるが、負担も増えるのではないか。

- [林様] 今の話の論点は2つある。一つは、クレジットカードの料率は維持できる。指紋認証を使ったからと言って(クレジットカードそのもの手数料率が)高くなることはない。もう一つは、現金の支払い期日が従来は60日後、90日後ということがあったが、そこが随分と変わってきている。今では、2週間後、1週間後に振り込まれるものもある。その分、交渉条件として、手数料自体が高く設定されているのかもしれないが、そこは事業者側と相談して、一番良い条件を決めていけば良いと考えている。
- [袋井市長] 導入の相談を商工会議所と行った場合でも、料率の相談は商工会議所の会員単位で行えるか。
- [林様] できる。手数料は、事業者との話し合いの際にもよく出てくる。例えば、手数料が3%かかるということももちろん重要ではあるが、手数料を上回る顧客を呼んでくることこそが重要である。
- [浜松市長] 売り上げが上がることが重要である。
- [林様] 他にも、おもてなしプラットフォームというサービスを提供しており、東京で登録した指紋情報は静岡でも使うことができる。また、指紋認証が使える地域の情報をマッピングして提供している。
- [袋井市長] 外国人旅行者は指紋を採られることを嫌がらないか。
- [林様] その質問もよくいただく。アジア諸国や欧米諸国で多少心理的抵抗は変わってくるものの、一足飛びでデジタル通貨が普及している状況にあるため、指紋認証に対する抵抗感は年々低下しているように感じる。日本でも、最初にこのサービスを紹介した時は「指紋を採るなんて、犯罪者が警察でされることではないか」という意見があった。一方で、近年はスマートフォンで指紋認証を採用していることもあり、慣れから抵抗感が下がってきている印象を受けた。
- [湖西市市長] 明日、2月1日から「めいぶつチョイス」を始める。意図としては、地域の活性化のために地域の商品を買ってもらうという観点と、総務省が目指すマイナンバーカードの普及という側面がある。湖西市はマイナンバーカードの普及率が低く、全国と同じで10%程度しか普及していないが、メリットが無いと普及しないと思う。メリットとしては、商工会のカードとの融合や、ボランティアで得られるポイントが買い物で利用できるなどの仕組みを付加しようと考えている。今だと、総務省からもらったマイナンバーカードのカードリーダーを商店に置いてもらうことを検討しているが、マイナンバーそのものに抵抗がある高齢者の方も多いため、本人確認のためにマイナンバーカードではなく指紋認証を活用できればいいと思う。そのような取り組みは可能か、もし可能であれば実際に取り組んでいる自治体はあるか、教えていただきたい。
- [林様] 実は、指紋認証の技術を始める際に、最初に相談したのが総務省である。先進的技術実用化支援事業というものがあり、マイナンバーの連携に当たって、マイナンバーをフィジカルカードに落とし込んだ時点で、無くしたり盗まれたりする危険性がある。行政側から見た場合、マイナンバーカード再発行のコストや維持するコストがかかってしまう。そこで基本的なサービスは生体認証で提供できるようになれば、行政のコストが下がるのではないかと、いうところから補助金を活用して技術を開発したという経緯がある。そのため、マイナンバーとは近い関係性にある。
- [湖西市市長] マイナンバーはカードで持つことについて抵抗がある方が多い。マイナンバーと意識させないことで心理的抵抗を少なくして、実質はマイナンバーで認証をしながら、メリットを高めて地域に還元できればと考えている。

- [林様] マイナンバーの認証周りのサービスはしており、そういった民間事業者向けのサービスは既に展開している。それらと組めば、ある意味日本国内では最強の認証システムができると考えている。
- [牧之原市長] 指紋の登録は、店舗でできるか。
- [林様] お店や空港、駅、観光案内所に登録スポットを設けて登録できるようにしている。
- [牧之原市長] カード番号などを入力する必要があるのか。
- [林様] クレジットカードの登録は任意であるが、その場でクレジットカード、メガバンクのデビットカードが登録できるようになっている。
- [牧之原市長] 携帯電話の番号で登録すると言っていたが、他人の電話番号では登録できないようになっているのか。
- [林様] 登録いただいた際に、その携帯電話宛にショートメッセージを送り、本人確認をしている。チェックイン作業の際にも行っているが、身分証明書をそこで提示してもらっている。日本人であれば、運転免許証や保険証などでレベルの高い本人確認をおこなっている。
- [袋井市長] 指紋認証の場合、カードさえあれば誰でも使えてしまうカードリーダーとは異なるが、指紋を登録するという行為に時間はかからないのか。
- [林様] 指紋の登録作業は、個人の名前を入力するところから始めても3分程度で全て完了する。そのため、ストレスは感じられないと思う。
- [袋井市長] 外国人旅行者対策で導入した後に、日本国内でそのシステムを使ってもらえないと意味がない。何の用事もない人が登録所にわざわざ行くことは考えにくいので、初めて店に来た人が、その店で指紋の登録をしながら決済ができればいい。
- [林様] 現在いくつかの日本の温泉街で導入している。例えば、兵庫県の城崎温泉では、元々温泉手形を発行して内湯や外湯を回れるサービスを観光協会で行っていたが、物を使ったサービスでは、紛失したり、他人のものと混同したりする状況が起きていた。今は指紋を使ってもらっているが、浴衣を着ているときにお財布を持ちたくないという方も多いため、お買い物時も指紋認証で決済してもらい、温泉街のサービスを全て指一つで受けられるようにしている。
- [袋井市長] 確かに、私も大きなお風呂屋さんに行くが、あの中で買い物をする時に全て指でできるのは便利だ。
- [牧之原市長] 牧之原の海水浴場でも、海水浴客が携帯や財布を持ち歩かないため、お金を使う時に大変である。
- [林様] スマートフォンを持つ方が増えると同時に端末価格もどんどん上がっている。盗んだ方は結構いい商売になる一方、盗まれた方が大きな損失になる。お金や携帯はきちんとロッカーに預けておいていただいて、決済は指紋でというサービスを由比ヶ浜で導入している。
- [浜松市長] そういうエリアでの導入は非常に便利だ。
- [牧之原市長] 車の鍵も今は多くがスマートキーだが、水に濡れてしまいキーが反応しないためサーファーが困っているようだ。車のキーも指紋でできるようになればいいと思った。
- [林様] 静岡県内のメーカーではないが、現在生体を使ったロックシステムの開発を進めているところである。
- [牧之原市長] Wi-Fi の関係で、それぞれのポータル掲載店舗から負担金をもらっているという話だったが、その負担はどれくらいか。
- [内藤様] 一般的な事例として聞いているのは、一件の広告に対して三千円から

一万円程度。毎月千件程度集めると、中小規模の自治体の Wi-Fi の維持コストが賄える。また、アンケートの場合は全部で 10 問を毎月千人に回答してもらえば、維持コストが賄えるくらいになる。両方を活用する方法もある。

- [浜松市長] アンケート代はどどこが支払うのか。
- [内藤様] 企業から、こういう質問をしてくれという依頼に対して、千人を1ロットで月いくらという形で支払いがされる。
- [袋井市長] ところで、浜松の商店街では全部の店でカードが使えるか。
- [事務局] 使えない店舗もたくさんある。
- [袋井市長] まして袋井市では、エコパの最寄り駅から会場までたくさん屋台があるが全て現金しか使えない。
- [浜松市長] 屋台はまた少し違う。
- [袋井市長] 屋台でたこ焼きやイカ焼きを打っているが、現金しか使えないと現金を持っていない外国の人は買えないだろう。そこにカードリーダーや指紋認証など何らかの支払い手段が無いと困るだろう。
- [浜松市長] ALIPAY があれだけ普及したのは、QR コードだけで支払いができ、特殊な機器の導入がない点大きい。
- [林様] あとは、ALIPAY も We Chat Pay もそうだが、日本でいう LINE のようなショートメッセージのサービスをそもそも行っており、利用者が相当いた。そのため、決済のために新たにダウンロードしてもらう作業もなかった点大きい。
- [牧之原市長] 携帯が盗まれた場合、携帯での決済はどうなるのか。
- [林様] スマートフォンの場合は、データを停止することができるため、セキュリティの担保は可能と考える。
- [牧之原市長] 普及しないのは、万一の時に使い込まれたらという不安もあるだろう。使うたびに暗証番号を入れるわけではないため、落とした時や盗まれた時に勝手に使われてしまうという不安はクレジットカード以上にあるのではないか。指紋認証の場合はそれが無いから、普及する気がする。
- [浜松市長] 色々なカードリーダーがあるが、指紋認証システムが USB など簡単にコネク特できるようになれば普及すると思う。
- [森町長] 指紋認証は今どれくらい普及しているのか。
- [林様] 現状だと登録スポット、店舗だけで国内で三千店舗弱程度。まだそれくらいしかない。
- [袋井市長] エリア数ではもっと少ないか。
- [林様] 現状約 55 市町村くらい。あと、東京が一番大規模に導入している。
- [市長] 近隣ではどこか。
- [林様] 湯河原あたりで導入している。実は最初に導入したのが湯河原エリアであり、そこから東京や北は松島、南は福岡・熊本の方まで展開している。
- [磐田市副市長] 由比ヶ浜の導入例で、最後は携帯を通じて請求書が来て、コンビニで振り込むとあったが、そこがキャッシュレスになっていないように感じる。
- [林様] 実は、この実証を行うにあたり、クレジットカード会社との調整が遅れてしまい、急場しのぎでコンビニ決済を用いた。この資料に掲載した実験例は一昨年(2016年)のものだが、昨年行った例ではクレジットカードとの連携ができたため、カード払いが可能である。
- [浜松市長] 最後カード払いができるなら便利でいい。興味関心は尽きないところではあるがそろそろご意見を絞め切りたい。事務局はこの件について、このエリアでどのように活用できるか検討し、次回までに提案をまとめ、次回の会

議で研究成果を報告してほしい。

- [掛川市長] ラグビーWCの時に使いたいと考えているので、お願いしたい。
- [浜松市長] Wi-Fiの整備と併せて検討してほしい。

## (2) 三遠南信地域の広域連携について

資料4、5、6、7に基づき、事務局（浜松市文化財課長、浜松市企画課大都市制度・広域行政担当課長）から説明。その後、質疑応答。

- [掛川市長] 三遠南信地域と言っても、我々からするとどうもピンと来ない。リニアの問題についても我々の方はリニアの工事で水が無くなってしまうと困るという運動をしている。そういう点からしても、なんとなく違うかなという気がする。広域的に色々な都道府県の領域から少し発展していくには三遠南信というくくりもあるだろうが、もう少し我々の地域にも重点を置いてほしい。日本遺産から天浜線が外れたことも、極めて承諾しにくいことである。ひとくくりにして三遠南信と言われても少し違和感がある。そういう気持ちは他の首長さんもあると思う。今の説明だと飯田の市長の話を聞いているような印象を受けるので、遠州地域で会議を行う際にはその辺のことも少し配慮していただきたい。少し嫌なことを言って申し訳ない。
- [浜松市長] 広域連携の中で、こういう関わり方がある、と示すように。例えば、農業分野では、単独の市では難しい輸出を、パッケージ化することで外国のバイヤーが買いやすいだとか、広域連携のメリットについてももう少し分かりやすく出してほしい。日本遺産のように飯田線単独のようになると関係ないだろうとなってしまう。日本遺産認定後に天浜線も追加できるのか。
- [事務局（浜松市文化財課長）] 文化庁からは、追加の認定はあり得ると回答をいただいている。
- [浜松市長] ビジョンを作るときも、どういう関わりができるのかをもう少し具体的に分かるようにしていく必要がある。
- [掛川市長] 掛川市も同じ時期に単独で申請を行うが、これからは色々なことを単独で行うのではなく、西部地域という関係性の中で、行政ビジョンを立てながら進めていかないと上手くいかないと思う。そういう意味で、三遠南信というくくりも大変重要だと思う。広域連合制度も初めからそういうものが必要だと思っている。今度、国民健康保険は、県が保険者になるようだが、広域連合制度のようになるのだろうか。
- [袋井市長] 県下全部の財源基盤の話だが、各々の保険者が料金設定をしているため、統一はもう少し先の話になるだろう。
- [浜松市長] 本当はそれを目指そうとしていたが、都道府県が文句を言って結局本来のあり方ではなくなってしまった。
- [掛川市長] 全国市長会の行政委員会で、「(国・県・市の)三層性はもう古い、明治からずっと続いており、周りの環境がどんどん変わっていくのに、そこだけ仕組みが変わらないのはおかしい」と総務省の行政局長に伝えた。そういうことも考えると、三遠南信というくくりが必要であることも理解できる。
- [浜松市長] それでは、三遠南信のくくりでどのような取り組みができるかもう少し具体的にまとめるようにしてほしい。その他ご意見はあるか。
- [袋井市長] その他ということで、県がやっている遠州広域水道のことについて一つよろしいか。現在、静岡県企業局では人口減少社会を踏まえ、健全な経営を進めていくため、平成30年から平成39年までの計画期間60年の水道施設更

新マスタープランと、計画期間 10 年間の経営戦略の策定を進めている。また、この料金については、これらの計画を踏まえ、平成 31 年度の次期算定期間の前に協議を進めていくと伺っている。つまり、県は、30 年度中に長い計画の基本を作ってしまうという考えである。西部の 5 市町、浜松、湖西、磐田、森、袋井が遠州水道、御前崎と牧之原が榛南水道から受水している。そこで問題なのが、契約水量と実際の使用料に大きな差があることである。この点について、遠州水道の料金は受水をしている各市町の水道事業の経営にも関係するため、担当部署レベルでの協議を行っている。県としっかりした協議をしていくためには、関係市町で意思統一をして一緒に対応していくことが必要。改めて関係する首長同士で意見交換などきちんとした対応が必要である。これについて、県の企業局は、難波副知事まで含めて、このような意見であった。「県が水瓶を作る時に、市町から水の需要量を聞いてこれだけ大きなものを作った。県は水瓶を起債で作っており、その償還をする必要がある。市町の人口や水の需要量を聞いて作ったため、県の落ち度が無い。その時に言った容量にしたがって、実際の使用水量に関わらず負担をするように。」と。確かに、当時市町では人口が増える想定で需要量を算出した。しかし、当時県もその数字を見て、こうなるだろうと了承して作っている。結果において、人口が減少や節水機能の向上によって契約水量と受水水量の差が出たとして、それを市町にだけ負担をさせるのではなく、半分県が負担することなどを含めて原局の方では協議をしていると思う。これについて、是非各首長様方にはご協力いただきたい。

- [掛川市長] 県の企業局の水道事業の方が、大井川水道企業団として広域連合でやっている料金よりすごく安いので、そちらへ入れて欲しいくらいだ。今現在は広域連合で企業団を作っている。
- [袋井市長] それは掛川とどこが入っているのか。
- [掛川市長] 牧之原市と御前崎市も入っている。大井川の相良、藤枝、島田、焼津も入っている。県と比較すると、企業団の水道の方が大分高い。
- [牧之原市長] 榛南水道も契約水量の 6 割くらいしか使っていないが、月の基本料金として約一千万円を支払っている。基本料金が 1 トン当たり約 50 円程度、それだけ使っていないでも払っている。
- [掛川市長] 企業団のトップが県であるため、県と調整しながら、基本料金を若干下げさせた。
- [浜松市] 基本料金の見直しは微々たるものだ。
- [袋井市] それでは根本的な解決にはなっていない。
- [牧之原市長] 使わないものに対して一億二千万円を支払っている。
- [袋井市] うちも同様だ。
- [浜松市] これは結構大事な話だ。そもそも、60 年後に県があるのか。松井掛川市長の話でも出たが、60 年後に県制なんてないだろう。
- [袋井市] これに対してはやはり対応が必要だと思う。ある程度事務ベースで整理してから、首長が出ていく話になると思うのでよろしく願いたい。
- [浜松市長] ダムの問題でもある。全部が治水のためのダム機能ではない。防災ダムでもあるのだから、そちらの方は県できちんと持ってもらわないと困る。
- [掛川市長] 水道事業は全部県の職員がやっているのか。
- [袋井市長] 各市町へ来るところまでは全て県がやっている。
- [浜松市長] まずは事務的に整理してもらおう。
- [事務局] 原局で既に動いているため、再度確認を行う。